

広島県知事・福山市長会談 議事要旨

(開催要領)

- 1 日 時：2024年（令和6年）2月5日（月）11：30～12：15
(ぶら下がり取材～12：30)
- 2 場 所：縮景園 清風館（対面開催）
- 3 出席者：広島県知事 湯崎 英彦
福山市長 枝広 直幹

(意見交換項目)

- 議題1 子ども・子育て施策について
- 議題2 専門人材の確保について
- 議題3 ネット・ゼロカーボン社会の実現に向けた取組について
- 議題4 新たな産業用地の創出について
- 議題5 福山港内港地区の埋立について

(概要)

<議題1：子供・子育て施策について>

○知事

子供・子育て施策については、重要な課題であり、県では、県民が安心して妊娠・出産、子育てできるように、ひろしま版ネウボラの推進のほか、産婦健診・産後ケアなどの母子保健事業や、不妊症あるいは不育症支援などに取り組んでいるところです。

福山市におかれては、これら県事業と連携し、福山ネウボラをはじめ、不妊治療を行う方に対する県の助成への上乗せをしていただき、福山市独自の取組を、精力的に進めていただいているところです。引き続き、ネウボラを中心とする母子保健や子育て支援に連携して取り組ませていただければと思っています。

また、家庭内において女性に家事・育児負担が偏っているという現状を踏まえ、令和6年度から、県では、共育での定着に向けて、男性の家事・育児への参画を促進するとともに、最近の子育てが大変だというイメージばかりが流れているので、若い世代へ子育てに対するポジティブなイメージの浸透を進めようと考えています。こういった少子化の問題に対して、社会全体で課題意識を持っていただけるように、取り組んでいきたいと考えているところです。

福山市においても、ぜひ、こうした県の方向性にご賛同いただき、これらの関連情報を市民の皆様、あるいは子育て家庭に発信して届けていただくなど、県と連携して取り組んでいただきたいと思いますので、どうぞ、よろしくお願ひいたします。

●市長

まず、知事にお礼を申し上げたいと思います。福山市、あるいは広く備後圏域の医療提供体制の確保に向けて、岡山大学の寄付講座について、大変なご配慮いただきました。感謝を申し上げます。引き続き、広島県と連携して、県東部地域の小児救急・周産期医療提供体制の確保に努めていきたいと思っております。

そして先程、知事からお話がありましたが、「共育て」の定着に向けて男性の家事・育児への参画の促進をしていきたいという県の方針について、私も賛同し、一緒になって取り組ませていただきたいと思いますと思っております。

そのためにも、企業の意識改革や行動変容が大変重要であると思っております。こうした中で、県内で初めて、こども家庭庁と連携して「共働き・共育て」をテーマに、「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in 福山を先月 27 日開催しました。

また、働きやすい職場環境づくりも重要だと思っております。そうしたことに理解のある企業が多く集まり、交流し、そして実践をする「グリーンなものづくり企業プラットフォーム」を既にスタートしています。

これらの取組を更に広げて、男性育休の取得向上や長時間労働の抑制等を推進していきたいと思っております。知事が言われたように、子育てに対するポジティブなイメージをもっと広げていこう。まったくその通りだと思います。これからも広島県と連携して子ども・子育てに取り組んでいきたいと思っております。

<議題2：専門人材の確保について>

●市長

同じ課題を共有する備後圏域市町を代表して知事にお願ひしますが、土木技師をはじめとする専門人材の不足が深刻化しています。そのための対応の一つとして、広島県が主体となって「広島県市町合同職員採用試験」を実施いただきました。土木技師確保の新たな取組の一つとして、大変期待しております。御礼申し上げます。

また、これだけにとどまらず、備後圏域でも独自の取組を始めております。本年4月以降の採用に向けて、「専門職職員の退職人材登録制度」という人材バンクのようなものの運用を開始しています。圏域市町の技師や保育士、保健師の退職者の情報を集約及び名簿化し、圏域市町で共有・活用するものです。このような様々な取組をしておりますが、依然と厳しい状況です。

このような状況を踏まえて、昨年11月には、総務省の「復旧・復興支援技術職員派遣制度」を活用し、技術職員の派遣をお願いしたいということで広島県・岡山県に要望書を提出しております。

具体的には、府中市では平時からの職員派遣を望んでおります。また、世羅町では災害時の職員派遣を求める声が依然としてあります。あわせて、圏域市町の事業の受託や技術的な相談体制を強化することで、負担軽減や業務の質向上につながる支援を検討していただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

○知事

福山市が備後圏域の中核拠点として、福山市のみならず、圏域全体の調整・取りまとめなどをしていただいていることに敬意を表します。

市長からお話のあった「広島県市町合同職員採用試験」については、平成30年7月豪雨からの復旧・復興に非常に大きな力を必要としたことを契機に、平時でもそもそも採用が困難になっている土木人材を確保するために、令和元年度から実施してきたものです。今年度は、福山市を含め9市町にご参加いただき、申込者数も過去最多の26名となったところです。

県としては、市町の専門人材確保を支援するため、引き続き、この取組を推進したいと考えております。福山市におかれても土木技師確保の有効なツールとして、積極的にご活用いただきたいと思います。

市町への職員派遣や事業の受託については、人材育成や業務の質の向上の観点から、重要だと我々も考えております。福山市とはこれまで、平成29年度から継続的に土木職・建築職の相互派遣を行っており、必要に応じて市町工事の受託等を行っているところであります。

また、令和3年度に設置した「土木技術に係る県・市町連携調整会議」を通じて、県全体で行政サービス水準を将来にわたって維持していけるような仕組みをつくらなければ

ならないということで、広島県土木協会のあり方も含めて、意見交換やヒアリング等を行っているところです。採用や人材育成などを含めた人材確保についても、既に行っている情報分野だとデジシップという仕組みをつくって、人材を共同化するというをやっておりますし、防災分野でもそのような方向で進めているところです。ただ共同採用するというだけではなく、さらに一歩進んで、共通人材をつくり、その中で人材育成を図っていくなど、他の取組を参考にしつつ、検討を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

●市長

人材確保という意味では、規模の小さい基礎自治体の大きな課題となっています。お話しいただいたように、様々な分野で人材確保を県が主導していただいているということで、心強いなという思いを持ちました。引き続き、よろしくお願いいたします。

○知事

福山市は大きい自治体ですが、町単位になると土木職や情報職の人数が少ない中で人材育成をしていくのは非常に難しいので、広域でやっていこうということです。ご協力お願いいたします。

<議題3：ネット・ゼロカーボン社会の実現に向けた取組について>

○知事

広島県では、令和3年3月に、「みんなで挑戦 未来につながる 2050 ひろしまネット・ゼロカーボン宣言」を行いました。また昨年3月には、国の温室効果ガス削減目標の引き上げがあったことを踏まえて、「広島県地球温暖化防止地域計画」を改定して削減目標を39.4%に引き上げたところです。

改定にあたっては、なかなか自主的な取組が進みにくい中小企業や家庭への省エネ対策等を強化していく必要があると考えております。中小企業向けの取組については、幅広い業種においてCO2排出量の可視化する。また、排出状況に基づく傾向分析や、それを踏まえた具体的対応策の提案までを一体的に支援しております。また、サプライチェーン全体でカーボンニュートラル実現を図らなければ意味がないので、製造業者等の企業間連携を促進することを目的としたワークショップの実施や実証事業の支援を進めて参ります。

家庭向けの取組については、クールシェア（夏）、ウォームビズ（冬）などの市民の皆様様の行動変容、それからZEH（ゼロエネルギーハウス）の普及や既存建物の窓を断熱化するなど、住環境に関する省エネの普及啓発を行っております。

実は、家庭部門の電気使用量の約2割を照明器具が使っており、なかなかLED化が進んでいないため、LED化を進めていくこととしています。特に、LED照明については、普及率が5割程度にとどまっています。白熱電球と比較して1/8、蛍光灯と比較しても1/2の消費電力となるので、最大半額、上限1万円をポイント還元するキャンペーンを実施したところです。これは一旦終わっていますが、家電の補助については、県はLED、市はエアコン等で住み分けを実施しており、結果的に市民にとって効果の高い取組となっていると思っています。他の取組についても県と市で協調して、ネット・ゼロカーボンに向けて県民・市民への感心を高めることができればと思っています。

それから県庁自身の温室効果ガスの削減目標は55%であり、今年度から、PPAを活用して県有施設への太陽光発電設備を導入しております。

福山市も新電力を通じてPPAの取組を進める予定と聞いており、ノウハウの共有や再生エネルギーの普及の連携を進められることを期待しております。

また、いわゆる港のカーボンニュートラルについては、「福山港港湾脱炭素化推進計画」の策定を進めているところです。現在、JFEスチール株式会社西日本製鉄所をはじめとする関係企業や関係行政機関等による官民が連携した福山港港湾脱炭素化推進協議会を設置して、福山港での温室効果ガスの発生の現状及び削減目標、それらを実現するために講じるべき事業や実施主体などの検討を始めております。引き続き、福山市と連携して福山港のカーボンニュートラルを進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

●市長

先程は、県のネット・ゼロカーボンに向けた取組のお話がありました。福山市では、昨年2月に、「ゼロカーボンシティ」を宣言しました。そして、第二次福山市環境基本計画を見直し、2030年度までの温室効果ガス排出量の削減目標を本市では39.0%として定めております。これに向けて、市民や事業者や行政が一体となって、目標実現に向けて取り組んでいるところです。

高い目標値を設定しつつ、今の状況をしっかりと把握しながら進めていくことができれば、一番アプローチしやすいのですが、今の立ち位置がどのような状況にあって、どれだけ進んで、どんな課題があるかという進捗状況をなかなか把握しづらいと思っております。

そのような中でも、できることをやっていかなければいけないということで国の交付金を活用しながら、太陽光・蓄電池などの導入補助や、先程お話にもありましたが、市民向けにはエアコンや冷蔵庫を省エネ性能の高い家電への買替えに際して、多くの市民に補助を利用させていただいております。今後もこのような取組を進めながら、買替家電の問題だけではなく、行動変容につなげていくことが大事だと考えております。

公共施設への太陽光発電設備を導入するPPA事業についても、福山市が出資している福山未来エネルギー(株)をPPA事業者として、来年度は、まず3つの施設で実施していくことを予定しております。周知をしっかりとすることによって、事業者の行動変容を促していくことが重要だと思っております。

近隣市町、具体的には府中市と神石高原町との広域処理を合わせて行うことができるふくやま環境美化センターの整備も進めており、今年の8月には本格的に運転することとしております。一般廃棄物処理施設としては国内最高レベルの高効率発電を行い、備後圏域内の公共施設に電力供給することで、エネルギーの地産地消と地域の脱炭素化を進めていくこととしております。

また、先程は共働きで取り上げましたが、「グリーンなものづくり企業プラットフォーム」について、先進的な環境技術を使っているものづくり企業は福山にはたくさんあります。そうした取組を広く産業界に広げていくことで、カーボンニュートラルに少しでも近づけていきたいという思いです。

企業から「どれだけCO2を排出しているのか分からない」「何から取組を進めていけばいいか分からない」という声を受けて、まずはCO2の排出量を可視化し、排出量削減の取組のきっかけとなるよう、昨年の12月補正予算で、システム導入支援を予算措置し、1月から実施しております。

カーボンニュートラルレポートについても、知事のご配慮をいただき、協議会がスタートします。ぜひ、本格的に取組を進めていく中で、産業都市ふくやまですから、産業部門からのCO2排出量削減につなげていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

<議題4：新たな産業用地の創出について>

●市長

昨年の12月19日に開催しました福山北産業団地第2期事業完成式典に知事代理として玉井副知事にご出席いただきました。本当にありがとうございました。その時に、実は少し遅れて到着をされたのですが、その理由が市内道路の交通渋滞ということで、大変ご迷惑をおかけしました。福山市では渋滞解消に取り組んでおりますので、今後はこのようなご迷惑がかからないようにしたいと思っております。

そして北産業団地の事業にあたっては、県からの造成交付金や土木職員による技術的支援など様々な支援をしていただきました。感謝申し上げます。

おかげさまで、工事の完了を待たずに、全ての区画で進出企業と立地協定を締結できました。その後に1社が辞退しましたが、空いた1区画についても現在、商談が進行中です。やがて、新たな立地協定の締結に繋がるものと思います。

産業用地は福山でつくれば、すぐに売れるというように産業用地は不足しています。企業立地のニーズや土地利用の現状を把握しながら、地域未来投資促進法の活用も視野に入れて、新たな産業用地を検討したいと考えております。地域経済の拡大や地域の雇用の確保に向けて、県と情報を共有しながら、あるいは県の情報をいただきながら産業用地の確保に努めていきたいと思っております、引き続き、よろしくお願いいたします。

○知事

産業団地については、県営産業団地だけでなく、市営産業団地、あるいは民間遊休地など、多様な主体と連携しながら産業用地の確保に努めているところです。福山北産業団地については、市と県が一体となった産業用地確保の取組のモデルケース第1号であると認識しており、非常に好調に販売が進んで、他の市町の参考となる好事例となっており、喜ばしく思っているところです。

今後も、県経済の持続的な発展と産業振興を図っていくためには、様々な企業ニーズを踏まえた産業用地の確保が必要であると認識しています。また、福山市を含めて、産業用地の引き合いが多くなっているという状況も聞いていますので、県としても、地域未来投資促進法を活用して、産業用地の確保をしていくことについて、国の同意を得られるよう、協力していきたいと考えております。

引き続き、産業用地造成に対する助成制度による支援に加えて、民間遊休地の積極的な情報収集や仲介を行うことで、多様な企業ニーズに対応した産業用地の確保に取り組んでいきたいと考えております。

●市長

先般、三原の本郷産業団地が売却されたということで、素晴らしいことだなと思っております。県の大きな力添えがあったということです。私たちも北産業団地に続く、大きな

産業団地を造成できれば望ましいことだと考えています。それに加えて、市の産業用地の確保に向けた考え方が、市街化調整区域における良好な農地を残すということに過度に視野が向いていると感じています。今後は、良好な農地を残すことと産業用地に対するニーズの強さを調整して、調和するような形に変えていきたいと考えております。

県も市街化調整区域の開発についての一定の基準を設定しておられますので、そのような考え方も参考にしながら、また、助言もいただきながら、細かな市街化調整区域内における産業用地の確保にも努めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

<議題5：福山港内港地区の埋立について>

●市長

昨年12月の経済会との定期的な意見交換をする場において、経済界から福山港内港地区の埋立についての要望がありました。また、先月末には要望書の形で気持ちを受け止めております。大変強い思いが経済界にもおありだなということを改めて確認いたしました。

内港地区の埋立を行うことで、新たな産業用地の確保につながるでしょうし、近接している福山市立大学で議論を始めている新しい学部創設に連動した大学用地や宅地、あるいは造成した土地に南北をつなぐ道路を整備することで、国道2号の渋滞解消にも効果があるかもしれないなど、様々な意味を持つプロジェクトになる可能性があると考えております。

現在、近隣の住民の皆様のお考えを丁寧に聞き取る作業を行っております。もちろん港ですから、管理者である県のご指導もいただかなければなりません。あるいは事業の大きさを考えると、国との議論も必要となってくると考えております。

今後、事業を実施したいという思いを改めて持った時には、土地利用のあり方や、それを踏まえた県による港湾計画の変更、公有水面埋立免許の許可など、ご相談をさせていただきたいと思っております。

○知事

内港の一番奥の前に、福山市立大学がありますが、その奥には福山みなと公園があり、海岸保全施設などの整備を行っております。福山港港湾計画では、プレジャーボートの係留施設という位置づけがあるところです。

一方で、県外からの企業誘致や福山市周辺企業の投資促進を図る受け皿となるような産業用地の確保は非常に重要な課題だと思いますし、あるいは大学用地、福山市立大学も今度情報系の学部を拡張されますが、そのような大学用地としての活用、さらには周辺道路の渋滞緩和など、地域の発展にとって重要な課題と認識しているところです。

様々な需要はあると思いますので、福山市の検討状況をお聞きしながら港湾計画の変更等について、ご相談があれば、しっかりとお答えさせていただきたいと思っております。

●市長

この辺りは水の出入りがないものですから、夏場になると、周辺に異臭が出るなど、環境面での課題もあります。状況が固まっていまいりましたら、ご相談させていただきます。よろしく願いいたします。

<フリートーク>

●市長

県からのご指導をいただきながら、市政運営をやっております。そういった意味では着実に課題整理に繋がっており、今回の議題にとどまらず、非常に感謝しております。

○知事

駅前の再開発の話も順次進みつつあります。市全体の都市の居住誘導やにぎわいづくりなど、そういったところも連携して進めていければと思っております。

●市長

来年はバラ会議の開催の年になります。日本ばら会の名誉会長でもある寛仁親王妃信子殿下に大会名誉総裁に就任いただく予定です。

また、今年の4月にはバラ公園のリニューアルがあり、5月からは大会申込受付を開始いたします。

実はバラ会議はバラ公園を作られた第7代福山市長の徳永豊さん。当時何かに特化した公園は珍しい時代に、バラに特化した公園「ばら公園」を作られた方です。徳永豊さんの回顧録には、いずれここを舞台に国際バラ展を開いてほしいと書いてあるんですね。先人の思いに導かれて世界バラ会議の誘致を行っていたのかもしれませんが。特別顧問の知事のお力添えをいただいて、成功に導いていきたいと思っております。